農技セ第 5506 号
令和７年６月２日

各関係機関長　殿

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所長
（　公　印　省　略　）

令和７年度農作物病害虫発生予察情報について

令和７年度農作物病害虫発生予報第３号を発表したので送付します。

令和７年度農作物病害虫発生予報第３号

令和７年６月２日
徳　　島　　県

Ⅰ．普通作物

早期水稲

いもち病(葉いもち)

1)予報内容

発生時期　　平年並(前年並)
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 0.5%、発病度が 0.0)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。

(2)早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

普通期水稲

いもち病(葉いもち)

1)予報内容

発生時期　　平年並(前年並)
発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 1.3%、発病度が 0.1)。なお、補植用置き苗には発生を認めていない。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)補植用置き苗は、葉いもちの発生源になるので、補植が終わり次第速やかに処分する。

(2)早期発見に努め、発生を認めたら防除を行う。

イネミズゾウムシ

1)予報内容

発生量　　平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 41.7%と、平年(26.0%)に比べてやや高いが、25 株当たり成虫数は 1.1 頭と、平年(0.9 頭)並の発生である。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)発生状況に注意し、薬剤の育苗箱施用を行っていない圃場で成虫が多発した場合には、薬剤による本田防除を行う。

(2)活着が悪い水田では幼虫被害が助長されるので、深水を避け、根を健全に保つ。

サツマイモ

イモキバガ

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 12.0%、被害葉率が 0.6%)。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)発生初期に、薬剤を散布する。

アブラムシ類

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年並)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 40.0%と、平年(55.8%)並の発生であるが、寄生株率は 6.8%と、平年(11.4%)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2)葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3)薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

ハダニ類

1)予報内容

発生量　　平年より少なく(前年よりやや少ない)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 46.2%、寄生葉率が 3.9%)。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(2)葉裏に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

Ⅱ．果樹

ナシ

黒星病

1) 予報内容

発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) ５月第６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期も未発生)。

(2) 高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 摘果期に薬剤防除を行う。

(2) 薬剤耐性菌出現の恐れがあるので、同一系統の薬剤の連用は避ける。

アブラムシ類

1) 予報内容

発生量　　平年並(前年より多い)で、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) ５月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 25.0%、寄生新梢率が 2.3%と、平年(30.4%、3.5%)並の発生である。

(2) 高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 多発すると防除が困難になるので、初期防除に努める。

(2) 葉裏や芯芽に寄生しているので、薬液が付着するよう丁寧に散布する。

(3) 薬剤抵抗性が発達する恐れがあるので、同一系統薬剤の連用は避ける。

果樹共通

果樹カメムシ類

1) 予報内容

発生量　　平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1) ５月の予察灯調査において 、勝浦町及び上板町の誘殺数は、各種カメムシとも、平年より少なく推移している(表１)。

(2) 高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 果樹園周辺の山林や雑木林から成虫が飛来してくるので、園内を巡回し、飛来を確認したら早急に防除を行う。

(2) 夜行性の虫なので、薬剤の散布は夕方か早朝に実施すると効果が高い。

(3) 移動性が大きいので、広域一斉防除により防除効果の向上に努める。

表１　予察灯への各種カメムシ類の誘殺数

［ツヤアオカメムシの誘殺数］

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
5	1	1	202	48	2	384	35
	2	0	89	28	1	148	36
	3	0	494	61	1	829	49
	4	0	331	115	2	197	41
	5	0	423	35	0	169	20
	6		250	44		389	32
6	1		142	32		91	13
	2		141	66		238	16

［チャバネアオカメムシの誘殺数］

月	半旬	勝浦町			上板町		
		2025年	2024年	平年	2025年	2024年	平年
5	1	0	229	37	9	12	9
	2	0	6	12	0	2	6
	3	1	271	26	1	20	12
	4	1	192	42	8	28	10
	5	0	177	29	0	315	12
	6		94	23		254	18
6	1		37	6		28	6
	2		61	7		47	6

ナシヒメシンクイ *(令和７年５月２日付けで技術情報を発表)*

1) 予報内容

発生量　　平年よりやや多く(前年並)、発生程度は「中」

2) 予報の根拠

(1) 県内のナシ園７地点に設置したナシヒメシンクイのフェロモントラップへの４月における平均誘殺数が 174.0 頭と、平年(97.7 頭)の約 1.8 倍であった。また５月５半旬の誘殺数は 8 頭と、平年(3.9 頭)の約 2.1 倍となった(図１)。

(2) 高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 性フェロモン剤を設置することで、雌雄間の交信を攪乱して、次世代幼虫の密度を低下させる。

(2) 薬剤散布は６～８月を重点に３～４回実施する。

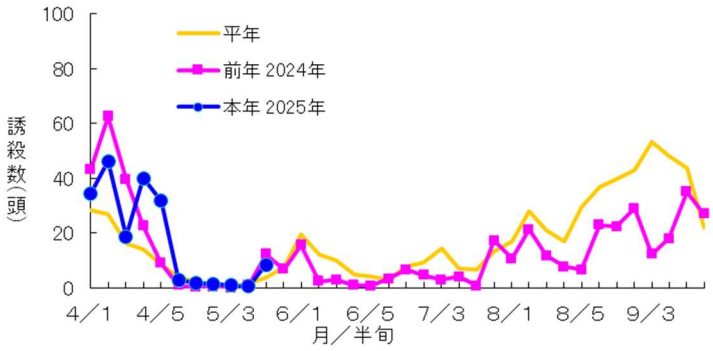

図1　ナシヒメシンクイムシ　フェロモントラップ誘殺数推移
※鳴門市、松茂町の7地点平均

Ⅲ．野菜

夏ネギ

さび病

1) 予報内容

発生量　　平年より少なく(前年より少ない)、発生程度は「少」

2) 予報の根拠

(1)　５月第６半旬の巡回調査では、発生を認めていない(平年同時期は発生圃場率が 30.4%、発病株率が 6.4%)。

(2) 高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 気温が 17～23℃の時、胞子飛散量が増加し蔓延しやすい。

(2) 多発すると防除効果が劣るので、薬剤の予防散布や発生初期の防除に重点をおく。

(3) ネギは薬液が付着しにくいので、展着剤を加え、散布する。

(4) 肥料切れして草勢が衰えると発病が助長されるので、肥培管理を適切に行う。

(5) 被害葉は伝染源となるので、圃場周辺に放置せず、速やかに処分する。

ネギアザミウマ

1) 予報内容

発生量　　平年並(前年並)で、発生程度は「少～中」

2) 予報の根拠

(1) ５月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 88.9%、被害度は 6.7 と、平年(95.2%、10.7)並の発生である。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。

(2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(3)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

ネギハモグリバエ

1)予報内容

発生量　　平年よりやや少なく(前年より多い)、発生程度は「少」

2)予報の根拠

(1)５月第６半旬の巡回調査では、発生圃場率が 33.3%、被害度が 1.2 と、平年(53.7%、2.2)に比べてやや低い。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)播種時又は定植時に粒剤等を土壌処理し、生育初期の被害を防止する。

(2)多発すると防除が困難になるので初期防除に努める。

(3)被害葉は発生源となるので、絶対に圃場周辺に野積み・放置せず、速やかに処分する。

野菜共通

オオタバコガ ***(令和７年５月 15 日付けで注意報を発表)***

1)予報内容

発生量　　平年より多く(前年より多い)、発生程度は「多」

2)予報の根拠

(1)県内の６地点に設置したオオタバコガのフェロモントラップへの４月第５半旬から５月第５半旬における平均誘殺虫数は 148.8 頭と、平年(36.1 頭)の約 4.1 倍であった（図２)。

(2)高松地方気象台が５月 29 日に発表した１か月予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並と予想されており、やや発生助長的な気象条件である。

3)防除上注意すべき事項

(1)果実、花蕾等の被害部位や剪定後の茎葉には卵や幼虫が付着している可能性があるので、圃場外に持ち出して適切に処分する。

(2)果実や茎、花蕾に食入した幼虫や発育が進んだ幼虫に対しては薬効が著しく劣るので、若齢幼虫主体の時期に薬剤防除を行う。

(3)本虫は作物の花蕾や生長点付近の新葉に１個ずつ産卵するので、寄生部位を注意深く観察してから防除する。

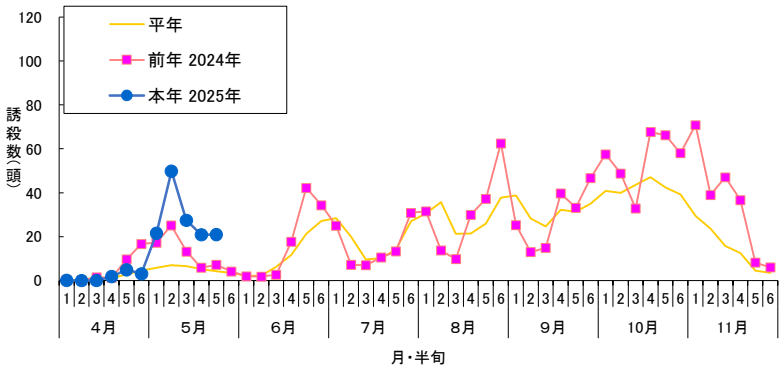

図2　オオタバコガ　フェロモントラップ誘殺数　全調査地点平均
＊阿波市、三好市、東みよし町、石井町の6地点平均

Ⅳ. その他

1)薬剤の使用に当たっては必ず使用基準を遵守し、周辺作物等へ飛散しないように注意する。

2)水田に薬剤を使用したときは、７日間以上止水する。

発生量の表示

発生程度：甚＞多＞中＞少＞無

発 生 量 ：多い＞やや多い＞並＞やや少ない＞少ない

徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所

ＵＲＬ： *https://www.pref.tokushima.lg.jp/tafftsc/t-boujosho/*

○　病害虫の発生予察情報、発生状況、防除法等をお知らせしています。